

# The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室  
発行人：出版室長 原 徳明  
〒520-0113 大津市坂本4-6-2  
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)  
Eメール：t-press@tendai.or.jp

令和8(2026)年4月1日 水曜日  
(毎月1日発行) 1部80円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル



## 宗門担う人材育成の一環に



## 叡山学院生がタイ・スタディーツアーに初参加

一隅を照らす運動総本部

天台宗一隅を照らす運動総本部(荒樋勝善総本部長)と叡山学院(坂本廣博院長)は、3月11日から15日までタイで「一隅を照らす運動スタディーツアー」を初めて実施した。参加した学院生5名は、スラム視察や共同生活を送る子どもたちとの触れ合いを通じ、同運動への理解を深めた。



まればなかつたり、薬物依存のスラムや農村部の子どもたちを支援する男女2校の「生き直しの学校」を運営している。

参加者らは、財団についての説明を受けたあと、隣接するバンコク最大級のスラム街、クロントイ・スラムを徒歩で視察し、厳しい生活環境などを目の当たりにした。続いて3歳から19歳の女の子が共同で生活する「生き直しの学校」カンチャナフリ校を訪問。寝食を共にしながら、サッカーやダンス、腕輪やクラフトと呼ばれる灯籠作りなどの作業を通して交流した。

財団本部訪問に併せてワット・サパーンを参拝し、東日本大震災とスマトラ島沖地震による物故者への慰霊法要を日本式で奉修し、さらに西国僧侶で平和を祈願した。

参加学生からは「日本はモノが溢れて便利だが、孤立しているのでは」「IT機器から離れた生活は充実していた」など、感銘を受けた意見が多かった。

引率した荒樋総本部長は「現地を訪問したことで、新たな気づきを得たとの感想があった。今回の経験を糧に、積極的な人材に育ってほしい」と期待を寄せている。

総本部では、今後大正大学や天台宗内の学生らの参加を呼びかけたいと考えている。

宗門関係学校の高校生らを対象としたツアーは毎年開催してきたが、叡山学院生が参加するのは初めて。アジアの貧困地域の現状と課題に直接触れる機会を設ける当初の目的に加え、天台宗の将来を担う学生らに一隅を照らす運動への理解と、その実践者になってもらおうと企画された。

5名の学生に加え荒樋総本部長と総本部職員の7名は、バンコク到着後の12日、ドゥアン・プラティープ財団本部を訪問。創設者のプラティープ・ウンソンナム・秦女史と秦辰也氏と面会した。

同財団は、「スラムの改善は教育から」を信念にプラティープ女史が1978年に受賞したマグサイサイ賞の賞金を投じて設立した団体で、教育、健康、社会福祉、人材育成、緊急支援を5本柱に活動している。教育の機会に恵

### 極微

春の訪れとともに  
に新年度が始まりました。進学や就職、異動と環境が大きく変わる方も多いのではないのでしょうか。新しい環境に飛び込むのは、期待と同時に不安もつきものです。学校では「友達ができるか」や「勉強についていけるか」、職場では「期待に応えよう」と、つい肩に力が入ってしまいます▼そんな時、背中を押してくれる仏教の教えがいくつかあります。例えば「諸行無常」。この世に存在するあらゆる事象や物事は常に変化し続けており、永久不変なものはいくつもありません。新しい環境での不安、慣れない仕事への緊張も永遠に続く訳ではありません。失敗しても昨日の自分に執着せず、今を受け入れるよう心掛けると、心が軽くなります▼またお釈迦様が最後に残した「自灯明」という教えです。つい同級生や職場の同期など周囲と比較してしまいがちです。SNSの普及で、他人の行動を羨ましく思ったりもします。「他人や外の評価を頼りにせず、自分自身を灯火として歩みなさい」とお釈迦様は説いておられます。自分の価値は他人の物差しでは測れません。自分の歩幅で歩むことが大切です▼新年度のスタートはふと立ち止まって自分自身を再確認する尊い機会でもあります。無理に飾らず自然の摂理に身を任せて過ごしてみたいかがでしょうか。